あの時助けて
いいただいた
オナホです。

ある日の帰り道、
道のど真ん中にオナホが落ちていた。
このままでは車に引かれてしまうと思い
とっさに拾った。
オナホ

どうやらこのオナホは未開封で
まだ新品のようだ・・・
捨てるのももったいない。
家に持って帰ろう。

今日も疲れたなー
もう寝ようっと
このオナホは気が向いたら使ってみよう
引き出しにでもしまっておくか

「あー明日も仕事憂鬱だなぁ
朝早くから働いてめんどくせーや」
「こんな生活じゃ彼女もできねーし
エッチも全然できねーよ」

「あ、あのぉ
私でよければお手伝いできませんか？」

!?
「うわぁぁぁぁ！あ、あんた誰だよ！！どっから入ってきた！！！」
「と、突然すみません。わ私は今日助けていただいたオナホです」
「はぁ？？？？？」

「道で引かれてしまいそうなところ
助けていただき
本当にありがとうございます
お礼に性処理のお手伝いを
させていただけませんか？♥」
「え？え？オナホってあのオナホ？
あ、箱がない！
ま、マジでどうなってんの？
夢？？？夢なのか？？？？？？」

「まだ信じられませんかぁ？
じゃあ♥
夢じゃないことをアソコで
証明してあげますね♥」
「全身オナホの私を
どうぞご堪能くださいませ♥」

「おっきぃおちんちん♥ずいぶん溜まってそうですねちゃんとオナニーしてますか？♥」
「いえ、全然。いつも疲れちゃって・・・」

「溜めすぎたら毒ですよぉ♥
まだ若いんだから
いっぱいオナニーしないと♥」
「今日は私が
精子が空っぽになるまで
全部出してあげますね♥」

「パイズリは好きですか？」
「初めてです^^;
すぐイっちゃうかも笑」
「いいですよ♥
イきたい時にイってください♥
我慢しないでくださいね♥」
むにゅ♥

「気持ちいいですか？いっぱい気持ちよくなってくださいね♥」
「あなたのエッチな顔私にたくさん見せてください♥」
しゅっ♥
しゅっ♥

「さらに硬くなってきましたよ♥太くてすごく熱いです♥いっぱい感じてください♥」
「射精が近づいてきてるのがわかります♥ビクビクいってますよ♥」
しゅこ♥
しゅこ♥
しゅこ♥
しゅこ♥

「うっ、で、射精そうだよ」
「はい♥お願いします♥
私の口に向かって
たーくさん射精してください♥」
ぺろ♥
しゅ♥
しゅ♥
しゅ♥
しゅ♥
しゅ♥
しゅ♥

「あん♥
すごい濃い精子♥」
「私がぜんぶ
飲んであげますね♥」
ドピュ
ビク
ビク

「はぁ♥
精子美味しいです♥」
ごっくん
「まだまだ溜まってますよね♥
今度はお口で気持ちよくしますね♥」

「では、いただきまぁす♥
さっき射精したのに
まだギンギンですね♥」
くぱぁ♥
口の中がオナホみたいだ・・・
夢でも現実でもどっちでもいい
こいつは最高に気持ちいいぞ

「おちんちんおっきい♥」
「ううっ、めっちゃ気持ちいいぃ」
「感じてもらえると嬉しいです♥
奥までおちんちん入れますね♥」
ぱくっ♥

「おく気持ちー、ヤベーすげーいいよ」
「ありがとうございます♥」
「もっともっと気持ちよくなってたくさん感じてください♥」
ずず♥
じゅるる♥

「喉の奥まで入って
私もとっても気持ちいいです♥」
「俺もめっちゃ気持ちぃぃ～」
「はふっ♥」
「感じてる顔とっても素敵です♥
いっぱい私のお口を感じて下さい♥
また美味しい精子ください♥」
じゅぶる♥
じゅっぽ♥

「おくひの中で、
また大きくなってひてまふよ♥
フェラ気持ちひぃんでふね♥
うれひぃです♥」
「がまん汁も出てまふよ♥
しょっぱくておいひぃでふ♥
おチンポ大好ひぃ♥」
じゅぽ♥
じゅぼ♥
じゅっぼ♥

「またイきほうなんれふね♥
おチンポがビクビクいって
わかりまふよ♥」
「あー射精るぅ」
「射精してくだはい♥
おいひい精子い～っぱい
お口の中に射精してくだはい♥」
じゅるっぷ♥
じゅっぷ♥

「んぅっ♥うぅうんっ♥」
「んぐっ♥♥」
「あつくておいひぃでふ♥
精子たくさんでてふよ♥♥」
ドピュ
ドピュ

「んはぁっ♥
精子おいしいです♥
ありがとうございます♥」
こいつはヤベェ
とんだラッキーに恵まれたぜ
「次はおまんこだ！」
「はいっ♥♥
おまんこにおちんちん下さい♥」
ドロ～
ごっくん♥

「あん♥おちんちん入ってく♥
おっきいおちんちんが
おまんこに入ってきます♥」
「やべぇ！気持ちいい！」
これは気持ちよ過ぎるぞ！
オナホ本来の柔らかくて締め付けられる感触に
人の温かみが加わって名器なんてもんじゃねぇ
締まり具合、濡れ具合、暖かさ加減、
こいつはマジで最高のオナホだぜ！
ズブウゥゥ♥

「あ♥全部入ったぁ♥
気持ちいいです♥
おまんこの奥にあたって
すっごく気持ちいいです♥」
「中でどんどん
硬くなってくのがわかります♥
おちんちん硬くて気持ちいいです♥
あん♥いい♥気持ちいいよぉ♥」
ヌプ♥

「おっぱい見せてよ！」
「きゃ♥いゃん♥そんな強引に脱がされると・・・興奮しちゃいます♥」
「とんだスケベ女だなぁ！」
「そ、そういう設定なので・・・♥あん♥激しいエッチが大好きなんです♥」
「じゃあいっぱい下から突いてやるよ」
ぺろりん♥
ずぶ♥
ずぶ♥

「あっ♥あっ♥いいっ♥
気持ちいいぃいぃい♥
ダメぇぇ私が気持ちよくするのにぃ」
「うっ締まりがすげぇ」
「あんっ♥やっ♥イっちゃうぅ♥
私がイっちゃうよぉ♥
気持ちいいよぉ♥感じちゃうよぉ♥」
ギシ♥
ギシ♥
ずぼっ♥
ずぽっ♥

『イクゥゥウ♥あぁっ♥イクぅ♥
またイっちゃう♥イクイクイクぅぅ♥
きもちぃよ♥感じちゃうよ♥
おちんちん気持ちぃーよ♥』
「おいっ、そんなに締めるな」
「だってだってって♥
こんなに気持ちよくされたら
おまんこキュンキュンなっちゃうよ♥
また熱い精子いっぱいちょうだい♥」
ズズ♥
ズズ♥
じゅぽ♥
じゅぽ♥

「だからそんな腰を動かすなっ」
「いい♥あんっ♥はぇ♥んぐぅ♥」
ダメだ、こいつ感じすぎて聞こえてねぇや・・・
「せーし♥ください♥
あっ♥はんっ♥せぇし♥せぇし♥
んぅっ♥きもぢぃいいいぃ♥♥♥」
「くっそ、ヌルヌルのキツキツで
気持ちよすぎる。もう我慢の限界だっ」
ぐい♥
ぐい♥
ぬちゃ♥
ぶちゃ♥

「イッ、イクッ!」
「きてっ♥いっぱいきてぇ♥」
「あぁん♥アツいの射精てる♥」
「膣内で精子が溢れてるよ♥
いっぱい精子うれしーです♥」
「だからそれ以上締めないでっ
精子止まんなくなっちゃうよ」
ビク♥
ビク♥
ドピュ
ドクドク♥

うわ、射精した精子が口から溢れてるよ
こいつの体どうなってんだよ・・・
「ひっく♥おいしい♥
精子おいしぃ♥
もっと、もっとくだはぃ♥」
オナホだから子供ができる心配もないし
射精しまくってやるか
「おちんぽ大好き♥精子大好き♥
いっぱいいいっぱいくだはぃ♥
エッチいっぱいしたいです♥♥」
ビクンッ♥
ビクンッ♥
ドク♥
ドク♥

「今度は後ろからだぞ」
「お願いします♥」
「いれて♥
いっぱい突いて♥」
「おちんぽ大好き♥」

「あんっ♥
入ってきた♥
おちんちんきたぁ♥」
「バック気持ちいぃ♥
奥にすごくあたる♥
いっぱいいっぱい
突いてください♥
私のおまんこで
いっぱい気持ちよく
なってください♥」
ぬぷう♥

「あっ♥いぃっ♥
すごい奥まで入ってる♥
硬くて気持ちいい♥」
「うっ！また
すげぇ締まりだ」
「気持ちいいですか？
私のおまんこ
気持ちいいですか？」
「あぁ、最高だ」
パンッ
じゅぼ♥

「ひゃんっ♥あん♥いい♥
あっ♥あんぁ♥んっ♥
んぐぅ♥むぅ♥はぁっ♥」
「おいおい
まだ締めつけて
くるのかよ」
「だって♥
激しいから♥
締まっちゃうよ♥
ねぇ♥お願い♥
もっと突いて♥」
パンッ
パンッ
ずぼ♥
ずぽっ♥

「あぁん♥いぃ♥♥いいのぉ♥
イっちゃう♥イっちゃうぅ♥
気持ちいいぃい♥♥あっ♥あっ♥はっ♥
んっ♥あんっ♥はぁん♥んぅ♥あんっ♥」
「好き好き♥
エッチ好き♥
バック好きぃ♥
アツくて硬くて
激しいおちんぽ
大好きです♥
ありがとう
ございますっ♥」
スパンッ スパンッ
じゅぽ♥
じゅぼっ♥
ずっぽ♥

「はひぃい♥激しいの♥気持ちいいの♥あん♥あ♥
あ♥あぇ♥あじぇっ♥だめっ♥私っ♥ばっかっ♥
きもちっ♥よくちゃっ♥一緒に♥イこうっ♥」
「うぅ射精(で)る
膣内(なか)に射精(だ)すよ」
「くだひゃい♥
膣内(なか)にいっぱい
射精(だ)して
くだちゃい♥
私♥もうっ♥
イキすぎて♥頭が♥
バカになっちゃう♥」
パンッスパパンッ
スパパンッ
にゅぽ♥
ぶぽ♥
ぶじゃっ♥

「イクゥ♥♥」
「一緒にイケましたね♥」
「すごいドクドク精子が出てるのを感じます♥濃い精子がいっぱいです♥もっと私に精子ください♥」
ドピュ
ドク♥
ドクドク♥

「すごい溢れてます♥もっとください♥もっとエッチしたいです♥」
「もっと突いてやるよ」
「うれしい♥お願いします♥」
「底なしの性欲だな」
「性処理の為に生まれてきたので・・・エッチしか頭にありません♥」
ぽた♥

「その前にきれいに掃除しろよ」
「はい♥おまんこ汁と精子でドロドロのおちんちんいただきます♥」
「このおっきいおちんちん大好きです♥きれいにしたらまたブチ込んでください♥♥」
どろ♥
「あぁ、玉までキレイにしろよな」

「ペロ♥ペロ♥精子おいしいです♥
おちんぽにからみついた精子大好き♥
一滴残らずキレイにお掃除します♥」
ペロ♥
「あんなに射精したのにまだギンギン♥
私に精子いっぱいください♥
全部飲みたいです♥お願いします♥」

「そうだ、いい子だ」
「ペロッ♥ペロッ♥ペロッ♥」
ありがとうございます♥
アツくてトロトロしてて
この精子本当に美味しいです♥」
「うれしいよぉ♥おいしいよぉ♥
舐めてるだけなのにおまんこが
キュンキュンしてきます♥」
「んっ♥ペロ♥んぐっ♥ペロっ♥んはぁ♥」
ペロ♥
ペロ♥

「んっ♥ごっくん♥」
「おいしぃ♥」
ごっくん♥
「もっと♥
もっと精子ほしいよぉ♥」
「キレイになったな、よしご褒美だ」

「はむぅ♥ぐっ♥　おちんちん♥」
ずぽ♥
「思い切り突いてくだはい♥
おくちをメチャクチャにひてくだはい♥」
「う、気持ちいい、気持ちいいよ
奥までぶっ刺してやるからな」

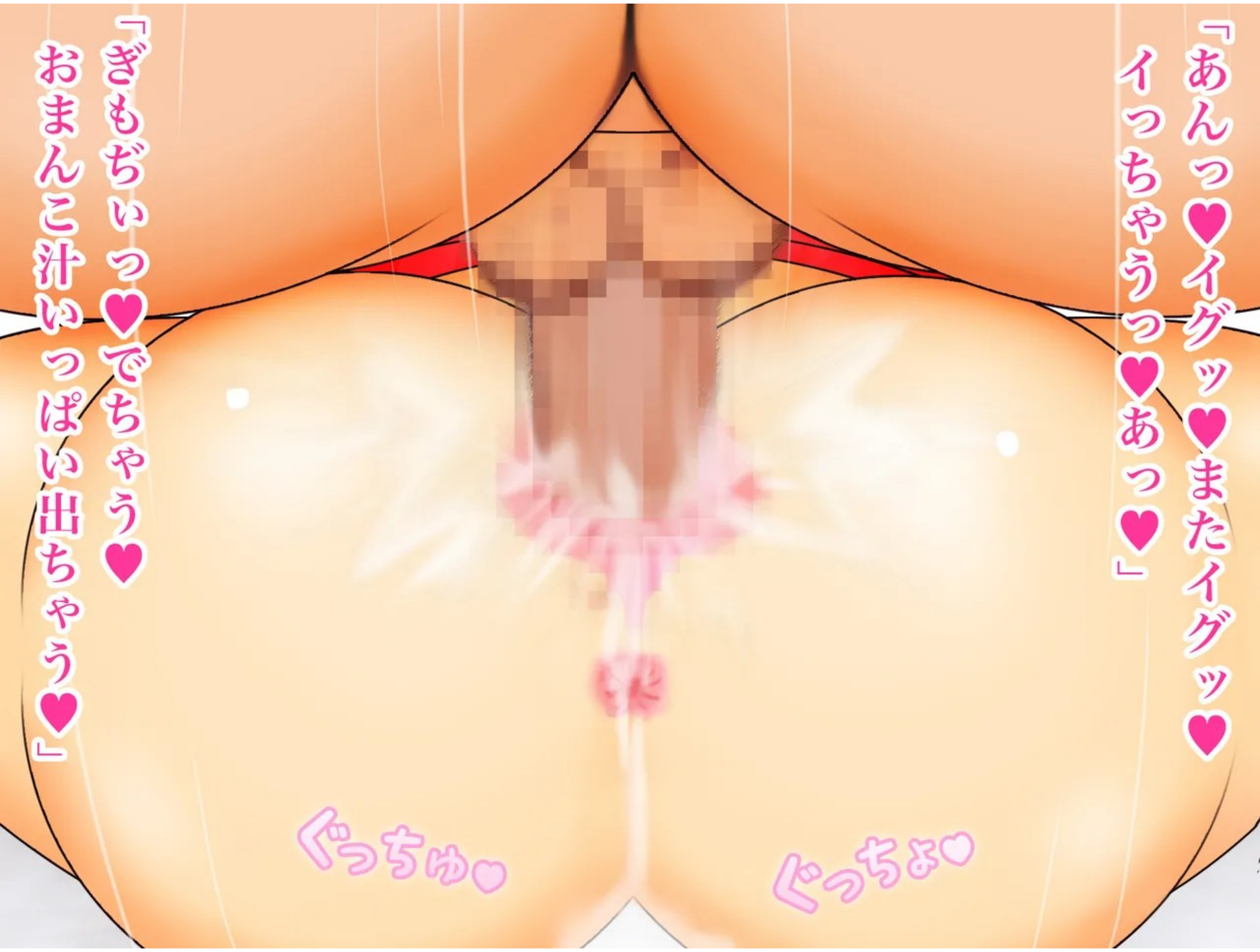
「いいよ、めっちゃいいよ
口の中がゴリゴリしててマジ気持ちいい」
「うぐっ♥ぶはっ♥ぐっ♥おぇっ♥
ゔぅっ♥ぐうえっ♥おぉっおぼぉっ♥」
ヴィヴィ♥
ずぽ♥
ずぼっ♥
ヴィヴィ♥
「うゔぇっ♥いぃいん♥ひもぃいん♥ぅごっ♥
おっ♥うぐぇっ♥ふぶぅっ♥ううんっ♥」
「ダメだ、気持ちよすぎてもうイきそうっ」

「イクっ！！」
「ううっぶっ♥ぶほぇ♥うぐぉ♥へぇひ♥おいひぃおぉお♥」
ドピュ
こいつ、口の中に射精しただけでイきやがった・・・
ドクドク♥
「ひぇっ♥ひっくっ♥あひゃっ♥いぃいいおぉ♥ひもぃいいおぉおお♥」

「ぶっといおちんちん、ください♥」
「マン汁が溢れてるじゃねぇか」
「すぐブチ込んでやるよ」
くぱぁ♥

「あんっ♥
おちんちんが入ってきてるのが
見えます♥
どんどん奥に
入ってきます♥」
「あぁ♥
気持ちいぃ♥
気持ちいいよぉ♥
たくさん突いてください♥」
ずぶっ♥

「あぁっ♥いぃっ♥
あっ♥だめぇっ♥
すぐイっちゃうっ♥
あっイクっ♥あんっ♥
またイクっ♥あ、イク♥」
「おちんちんアツい♥
アツいよ♥あんっ♥
もっと♥もっとしてぇ♥」
「う、すげぇ締まりっ」
じゅぼ♥
じゅぶ♥


「あんっ♥イグッ♥またイグッ♥
イっちゃうっ♥あっ♥」
「ぎもぢぃっ♥でちゃう♥
おまんこ汁いっぱい出ちゃう♥」
ぐっちょ♥
ぐっちゅ♥

「これが欲しいんだろ」
「はぃっ♥はひぃ♥きもぢぃよ♥
奥にあたってるよ♥」
「おく気持ちいぃ♥あんっ♥
あぁんっ♥突いて♥突いて♥
おちんぽいっぱいくださいっ♥」
ずぶっ♥
ずぶっ♥

「きもちィいイィいィイイイ♥
あっ♥ダメぇっ♥
こわれるぅっ♥あぁ♥
あああぁんっ♥
いぃイッ♥イイのぉ♥」
「おちんちん気持ちいィ♥
あたってるよ♥
いっぱい奥にあたってるよ♥
あん♥あっ♥あんっ♥もぅっ♥
頭っ♥おかしく♥なっちゃうぅ♥」
ぶじゅ♥
ぶしゅ♥

「あぁあっ♥あぁぁあん♥
いぃの♥気持ちいぃの♥
そこぉ♥そこぉおぉ♥
そこ気持ちイィいい♥」
「うわぁ、
さらに締まってきた」
「締めちゃうよ♥
ギュッと締めちゃうよ♥」
ずちゃ♥
ぬちゃ♥

「ヤベェ気持ちいいー
俺もイきそうっ！」
「きてぇ♥きてぇえ♥
ぁんっ♥」
「いっぱい射精してぇ♥
おまんこに精子いっぱいちょうだい♥」
ペチ
ペチ
ブショッ♥
ズショッ♥

「あぁっもう射精る」
「あっ♥激しいぃ♥
激しいよぉ♥
激しいのすきぃ♥
あんっ♥いくぅっ♥
いっぱい膣内に射精してぇ♥」
ぐっちょ♥
ずっちょ♥

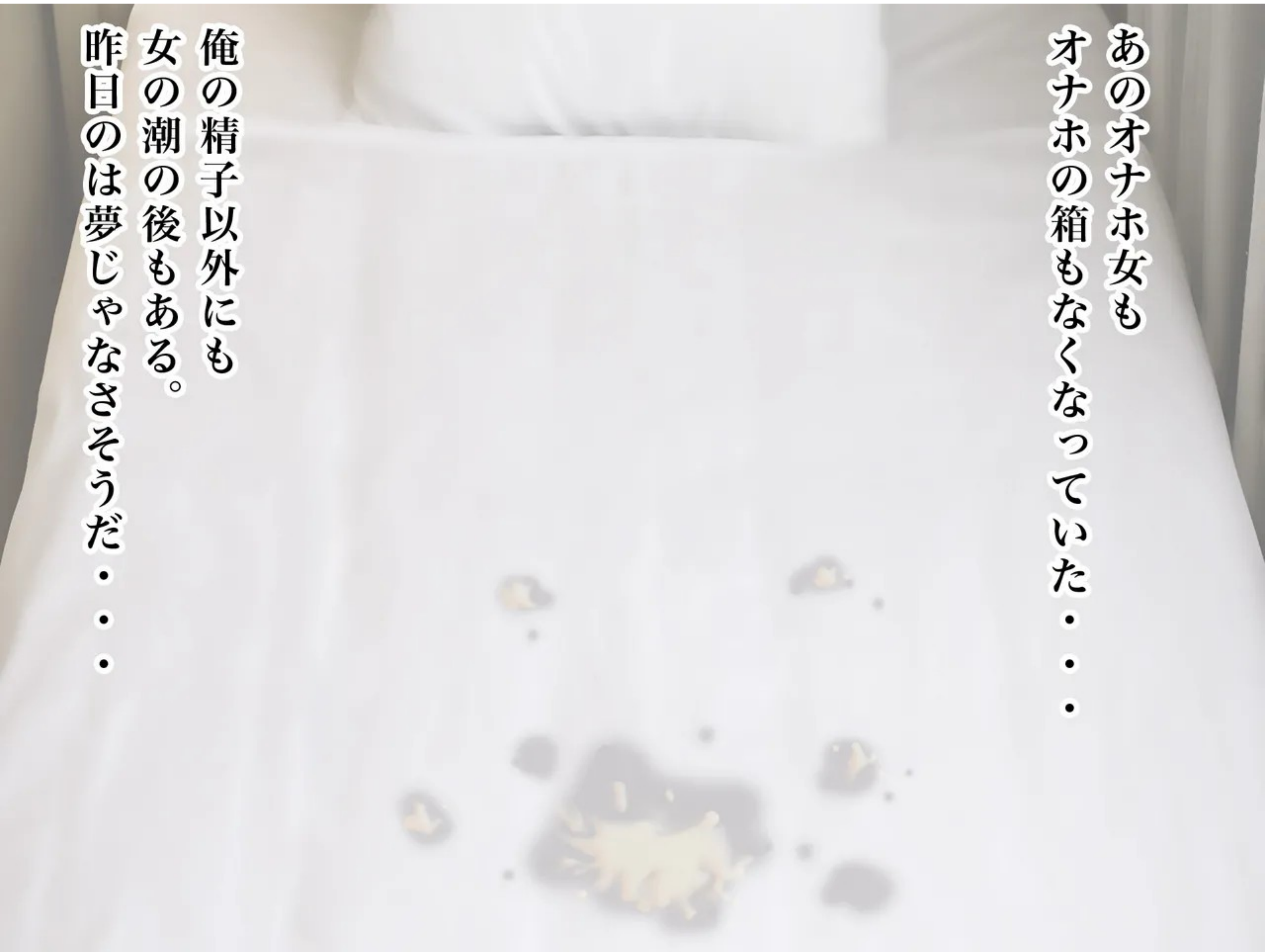
「あぁんっ♥射精たっ♥
精子いっぱい♥
膣内が
精子で熱いよぉ♥」
「ありがとうございます♥
たくさんイっちゃいました♥
気持ちよかったですか？♥」
ドピュ

「あぁ、よかったよ」
「よかったですぅ♥
嬉しぃです♥」
ドク♥
ドク♥
「溜まってたの
ぜんぶ射精(だ)せましたか？♥♥」

「まぁな」
って、おい
イき過ぎて気絶してやがるぜ
「あひ♥ひっく♥
ふぇん♥もっとぉ♥
おねぇぐぁひぃまふぅ♥」
どばぁ♥

さすがに疲れた・・・
明日にそなえてもう寝るか
「もっとしてぇぇ♥」
「おちんぽほしい♥」
また明日もこいつとヤリまくろう・・・

次の朝


あのオナホ女も
オナホの箱もなくなっていた・・・
俺の精子以外にも
女の潮の後もある。
昨日のは夢じゃなさそうだ・・・

次はあなたの街に
現れるかもしれません・・・
オナホ
終